

塚口先生と訪ねるー 出雲の古代を探る旅 (三)

(会員) 古高 邦子

*十月二十四日

島根県立八雲立つ風土記の丘く田和山遺跡
く宍道湖湖畔 (昼食) く加茂岩倉遺跡く神
原神社古墳く荒神谷遺跡く西谷古墳群く今
市大念寺古墳

*十月二十五日

島根県立古代出雲歴史博物館く出雲大社

加茂岩倉遺跡から、バスで数分の神原神
社古墳に着きました、

【神原神社古墳】

古墳の上に建てられた神原神社が移転さ
れることになり、古墳を発掘調査したとこ
ろ、直径二十三センチメートルの「景初三
年」銘の三角縁神獣鏡などが出土しました。

この年は『魏志倭人伝』に魏の皇帝が卑
弥呼に銅鏡百枚を送ったとされる年という
ことで、注目された鏡です。現在は竪穴式

石室だけが神社の近くに移設されています。

この古墳に埋葬された人は加茂岩倉に銅
鐸を埋納し、荒神谷に銅剣を埋めた人の子
孫なのでしょうか？それとも？さまざま
思いが浮かびます。

次に訪れた荒神谷史跡公園は仏経山のふ
もとの小さな谷間にあります。ボランテイ
アガイドの池田敏雄さんに発見当時の話を
伺いながら、案内していただきました。

【荒神谷遺跡】

一九八四年に大型広域農道の建設に伴う
発掘調査で、三五八本の銅剣と六個の銅鐸
と十六本の銅矛が発見されました。それま
で銅剣は全国で三〇〇本ほどしか発見され
ていませんでした。また文化圏の違う銅鐸
と銅矛が一緒の場所で発見されたのもびつ
くりでした。発見当時の状態が青銅器の複
製品を使って再現されていたので、きちん

とならんだ状態で、埋納されていたのがよく
分かりました。

この銅剣にも×印があります。仁木先
生にお聞きすると「いろいろな説がありま
すが、禁止・ダメの意味で埋めるときにつ
けたのでは？」とのことでした。

次に訪れたのは史跡公園「出雲弥生の森」
の中にある西谷古墳群です。

【西谷古墳群】

西谷古墳群では中国地方から日本海沿岸
に多く分布する大きなコタツ布団のイメー
ジの四隅突出型墳丘墓が、六基発見されて
います。

一番大きい西谷九号墳は約六十メー
トル×五十五メートルの最大規模の四隅突出型
墳丘墓です。発掘調査された西谷三号墳で
は墓の上で祭祀が行われたようです。出土
品から葬られた王が吉備や北陸地方とも交
流を持っていたのがわかります。

小高い丘の上にあるこの場所は出雲平野
や揖斐川を一望する景色の良いところです。
本日のスケジュールは終了の予定でした

が、仁木先生がオプシオンで今夜宿泊する「ツインリーブスホテル出雲」の近くにある今市大念寺古墳を案内してくださいました。

海に沈む夕日をみながらバスは進みます。

海に入る冬日見とどく出雲神

宮田 佐智子

すっかり日は沈み、大念寺のお墓の中を通り「肝試しみたい」とか言いながら、お寺の裏山の古墳に到着しました。

【今市大念寺古墳】

六世紀中頃の全長九二メートルの前方後円墳、出雲西部一帯に勢力を持った豪族の墓と言われています。仁木先生に教育委員会からお借りした鍵で扉を開けてもらい、中に入りました。

この古墳は石室が前室と後室に別れている両袖式の複室構造です。後室には石室いっぱい長さ三・三メートル、幅一・七メートル、高さ一・八九メートルの日本最大の巨大な石棺が迫ってきます。石室だけでなく、石棺の中まで入ることができました。今日はたたくさんのスケジュールをこなし、

お酒とおいしい料理を楽しみ、部屋に戻るとボタンキユ〜と夢の中…。

明日は楽しみにしている島根県立古代出雲歴史博物館と出雲大社へ行きます。

【島根県立古代出雲歴史博物館】

出雲大社の東隣りにある二〇〇七年三月に開館した新しい博物館です。まず学芸部長の松本岩雄先生からスライドで出雲大社、『出雲風土記』、青銅器の館内展示の説明を受けました。

中央ロビーに入ると出雲大社から出土した直径三メートルもある「宇祁柱うけばしら」が目を見えます。



また復元された出雲大社本殿建築模型（十分の一）はどの模型が本当？と想像を掻き立てます。

一番の圧巻は大量に出土した青銅器や古墳時代の豪族を飾った金色の大刀の飾りである展示室です。古代この地方に住んだ人々の繁栄を感じずにおれません。

改めて『日本書紀』『古事記』『出雲風土記』の勉強をしておそうと思えました。

【出雲大社】

昼食の後は出雲大社へ参拝しました。

鳥居をくぐり、まず柱穴の出てきたところを確認、柱穴の大きさを見ただけで、巨大な神殿であったことが実感できます。少し紅葉している八雲山を背景にした社は荘厳な感じがします。神楽殿の大きな注連縄も印象的です。本殿では「二拝、四拍子、一拝」でお参りをして、今回の旅行の行事は無事に終わりました。

お土産も買って、後はバスに乗って帰るだけと、思っていたら、途中でゴムの焦げた臭いがして、クラッチの故障とか…二時

間待って、ジャンボタクシーで米子へ到着。代替バスの運転手さんのスピーディーな運転で午後八時三十分は無事梅田に到着しました。天候にもめぐまれ、充実した旅行を過ごすことができました。塚口先生、幹事さんありがとうございました。

(誌面の都合で遅い掲載となりました)



夏霧の晴れ翠嵐の若狭かな

宮田 佐智子



八月の例会

八月八日(土) 午後二時より

会場 豊中市教育センター

「五世紀のヤマト政権と上毛野」

近つ飛鳥博物館 館長

白石 太一郎 先生

* 八月の現地見学は例年通りお休みです。

六月号の俳句の「幾畳も潮の道見せ瀬戸の夏」を「幾糸も潮の道見せ瀬戸の夏」に訂正して、お詫びします

編集後記

本誌二五六号より特集として掲載してきました一月に行われた文化財講演会 09 「五世紀のヤマト政権を探る」の記録は、途中編集の都合で掲載の順序が乱れてご迷惑をおかけしましたが、本号で無事完結致しました。長文のテープ起こしを引き受けて下さった会員の阪口孝男さん、校正して頂いた諸先生・豊中市教委の皆様にご礼を申し上げます。

次号より通常号に戻ります。最終頁を偶数にするために、あと一頁の記事に苦慮することが多々あります。特に短文歓迎です。ぜひ奮ってご投稿をお願いします。

<http://homepage2.nifty.com/toyonakarekishi/>